

会 議 録

会議の名称	令和2年度「健康ひょうが21計画(第2次)」第1回推進会議
開催日時	令和2年 8月24日(月) 19時00分～20時40分
開催場所	日向市民健康管理センター
出席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・九州保健福祉大学(アドバイザー) 佐藤 圭創 ・日向市東臼杵郡医師会 甲斐 史朗 ・日向市区長公民館長連合会 三浦 雅典 ・日向市・東臼杵郡薬剤師会 日高 篤子 ・日向市食生活改善推進協議会 吉川 良子 ・日向市社会福祉協議会 三輪 勝広 ・日向商工会議所 中城 健太 ・日向市養護教諭部会 押川 美香 ・日向市保育協議会 日高 真由美 ・宮崎県栄養士会日向事業部 黒木 直子 ・日向市高齢者クラブ連合会 黒木 茂範 ・日向市スポーツ推進委員協議会 水野 キヨミ
欠席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日向市・東臼杵郡歯科医師会 鮫島 晶 ・日向保健所 高妻 真子
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康ひょうが21計画(第2次)」中間見直しの概要について ・令和元年度の活動報告及び今後の取り組みについて ・計画の進捗状況について
会議資料の 名称及び内容	<ul style="list-style-type: none"> ・会次第 ・「健康ひょうが21計画(第2次)」中間見直し ・「健康ひょうが21計画(第2次)」計画書 ・別紙1 令和元年度各団体の取り組み及び改善したこと ・別紙2 目標値に対する日向市の現況
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会 議 内 容

1. 開 会

2. 部長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議 事

(1) 「健康ひゅうが21計画（第2次）」中間見直しの概要について ……事務局

本計画において、国や県と同じ目標で、市民一人一人の生活習慣を見直してもらいたいという目的から策定している。「健康ひゅうが21計画（第2次）」は平成25年度に作成し、5年目にあたる平成30年度に計画の中間評価・見直しを行った。中間評価では市の現状を進捗状況の把握を行って、今後の取組や目標値など見直しを行った。

目標値を達成するために、各機関、団体の皆様とともに七つの分野ごとにライフステージに応じた取組みをしており、推進会議においてそれぞれの取組、課題等を共有しながら進めているところである。

(2) 令和元年度の活動報告及び今後の取り組みについて（各団体より）

※別紙1参照

◆日向市東臼杵郡医師会

今後の課題は、特定健診の受診率アップ、生活習慣病予防の環境整備、小児生活習慣病予防健診の未受診者の対象を減らすことや市民が参加しやすい出前講座等の開催。運動については、運動習慣が定着しない理由、運動しない理由を整理。また、継続的な運動ができる環境づくりが課題であるため、運動関連団体指導者との連携が必要。その他、飲酒や禁煙、休養とこころの健康においては更なる関係機関の連携推進と「健康まつり」や出前講座等を活用し、広報啓発を図る。

◆日向市区長公民館長連合会

これまでもずっと健（検）診の受診率アップに取り組んでいる。個人情報のあるだろうが、受診率を上げるために各区長に対象者名簿を配布することで、的を絞って受診勧奨ができるのではないかと考えている。運動については、各区でのいきいき百歳体操やグランドゴルフ等の体操行事を実施。

また、こころの健康についての研修会を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。今後は、健（検）診受診率を上げるために各区長に対象者名簿を配布し、的を絞って受診勧奨ができないかと考えている。喫煙については、公民館等の禁煙を依頼していきたいと考えている。

◆日向市・東臼杵郡薬剤師会

ポスター掲示や相談による受診率アップの取組みを進め、少しずつ成果があらわれてきており、継続して行っていきたい。食事については、薬草観察会や薬膳料理に係る取

り組みについて市や生産者とともに盛り上げていきたい。

また、喫煙についても肺チェッカー、スモークアナライザーをイベントで使用し、啓発活動を続けていく。

◆日向市食生活改善推進協議会

昨年度は、行政等と連携しながら、地区講習会やイベント等で健（検）診を受けることの大切さを訴え、定期健（検）診を呼びかけている。これまでも生活習慣病予防のために野菜摂取量の増加や塩分測定を実施して減塩を推進することなどの活動を行っており、昨年は、正しいラジオ体操の手法やたばこやアルコールが体に与えている影響について学んだ。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、思うような活動はできていないが、いろんな団体と協力し、減塩や野菜の摂取量増加など自分たちにできる活動につなげられるよう取り組んでいきたいと思う。

◆日向商工会議所

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年実施している「ぷらっとひゅうが駅市」での健康相談を設けることができなかった。さらに、「ぷらっとひゅうが駅市」事業自体が廃止になったため、今後は他のイベントでの健康相談を検討していく。また、スポーツイベントを市民の運動改善できる場としたいと考えている。たばこについては、4月の健康増進法の改正に伴い、飲食店等の受動喫煙のため、県健康増進課と連携しながら取り組んでいる。

◆日向市養護教諭部会

「小児生活習慣病予防健診」においては、様々な家庭環境があり難しい状況もあるが、啓発や事後指導も含め、他の関係機関と連携した取り組みを行っている。運動については、運動経験の二分化が進んでおり、コロナ禍で体力低下も考えられ、いかにからだを動かせるか課題である。飲酒・喫煙対策についても他団体と連携した取り組みを行っている。歯科については、虫歯治療率100%達成した学校もでてきており、今後も保護者を巻き込んだ指導や啓発が必要だと考えている。休養とこころの健康については、スクールカウンセラーとソーシャルワーカーの方なども足りず、またすぐに解決できることでもない。メディア等の利用や睡眠不足により生活リズムが乱れ、こころの問題などによる不登校などもでてきており、課題となっている。

◆日向市保育協議会

生活習慣病については、保護者にいかに発信していくかが課題である。子どもに年齢に合わせた経験をさせることや、親子で取り組めるような調理や運動の場を提案していきたい。また、こころの健康については、保護者の心の状態がこどもにも大きな影響を与えてしまうため、発達相談の機会などを活用し、対応ができるように職員間で研修を行っている。今後も啓発を行う際は、対象者に沿って個別に対応し、理解を得ながらすすめていくようにすることが大切だと考えている。

◆宮崎県栄養士会日向事業部

今後の課題としては、重症化予防のためには受診率アップを図ること、また健診結果を正しく理解していただくことと考える。最近、若い世代や高齢者に低栄養の人が多く、適正体重の維持も挙げられる。そのために、運動プラス 10 分や、野菜プラス 100 g を目標に啓発を行っている。

また、歯科についても検診後に子どもは虫歯予防、大人は歯周病予防の啓発や指導を行う必要があると考えている。

◆日向市高齢者クラブ連合会

現在、連合会に加盟するクラブが年々減少してきており、活動の弱体化大きな課題となっている。活動を継続し、ピンピンコロリン運動を推奨していきたい。

◆日向市スポーツ推進委員協議会

運動について、子どもから高齢者まで、あるいは障がいのある方々に対してスポーツを楽しむ機会を増やすよう取り組んでいる。最近では、教室の時間や交通手段等の問題もあり、参加者数が減ってきている現状がある。

現在はコロナ禍で活動は厳しい状況であるが、可能になれば「ファミリー体力測定」等を通じて健康意識向上につなげたいと思っている。

◆日向市・東臼杵郡歯科医師会（事務局より報告）

歯周病については、メタボリック症候群をはじめ、糖尿病や高血圧等生活習慣病のリスクが高まるため、医科との連携が重要である。また、喫煙についても歯周病や口臭などのリスクについての説明を行っている。

今後とも市と連携し、虫歯有病率低下や成人・高齢者の歯科検診受診者増加に取り組んでいく。

◆日向保健所（事務局より報告）

生活習慣病については、昨年、糖尿病対策研修会を開催し、管内の糖尿病療養指導士など多数の方に参加していただいた。今年度は、糖尿病連携手帳の活用推進についてのチラシを作成し医療機関へ配布したほか、関係機関の協力によりベジ活・へらしおレシピを作成し、HPでの掲載やイベントでの普及啓発活動を行っている。

歯科については、フッ化物応用によるむし歯予防の格差の縮小に向けて、歯科医師会と今後とも連携を密にとりながらすすめていきたいと考えている。

◆いきいき健康課

例年、健（検）診受診率向上のための環境づくりや受診勧奨に努めているところではあるが、残念ながら昨年のがん検診受診率は下がってしまった。今年は若者の受診率をさらに上げるために、集合住宅にポスティングを実施。今後とも区公連や商工会議所にもご協力いただきながらポスターやチラシ等で健康啓発を実施していく予定。また、たばこについても妊娠届時のリーフットの配布をはじめ、今後とも様々な機会を通じて啓発に取り組んでいく。

◆日向市社会福祉協議会

生活習慣病については、行政の協力いただきながら職員の健康意識拡大・啓発を実施し、保健指導を徹底していきたいと考えている。食事と栄養については、高齢者向けの健康講座を実施している。今後は子ども食堂やフードバンク事業と連携し、効果的な食事支援事業の実施を考えている状況。運動については、いきいき百歳体操が82か所までに増え、自主活動として定着してきている。こころの健康については、引きこもりを対象に「居場所サロン」を開催したほか、学習支援活動を行っている。活動継続のため、学習支援に係る学生や指導者が限られていることが課題となっている。

【意見】

コロナ禍の中で生活習慣病の悪化、運動習慣の低下が考えられる。運動できないことによるストレスや筋力や体力低下も考えられる。

今後は、このような状況をふまえ、市民の健康増進をしっかりと考えていく必要があり、横のつながりをいかした取り組みが重要となってくる。

先が見えない状況で私たちに何ができるのか、さらに子どものこころのケアも重要である。

【総括】 九州保健福祉大学 佐藤教授

1 番大事なことは横の連携である。コロナ禍の問題として、運動不足や認知症がかなり増えており、糖尿病やメンタルの問題も非常に増えている。

日向市の状況のデータは具体的に出ているため、テーマを1つ決めてそれぞれの団体に協力してできるようなアプローチが良いのではないかなと思う。国等のデータと比較し、それぞれの団体の取り組みをポピュレーションアプローチなのかハイリスクアプローチなのかはしっかりと考える必要がある。コロナ禍でもできるようなイベント、例えばウェブの使用やFM等のメディアを巻き込むというのも1つの手法である。イベント開催のポイントとして、人が集まりやすいのは骨密度と認知症(MCI)、ロコモである。複数を組合せて人を集めると集まりやすい。実施する際は、様々な関連機関とつながりがあるいきいき健康課をつなぎとし、他の団体と一緒に取り組むと良いのではないかな。例えば、栄養と地産地消と認知症を組み合わせた健康会を実施すると人が集まりやすい。また、医師・歯科医師、薬剤師に講演等をしてもらうことで、地域の人がそれぞれの専門分野を理解することができ、必要時のコネクションができる。最後にポイントとしては、職域の方達へのアプローチ方法について検討が必要。

(3) 計画の進捗状況について

・・・事務局

- ・ 75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少では、男性は増加、女性は横ばいである。
- ・ 各がん検診受診率では、胃がん検診のみ計算方法が変わったため、人数が増加しているが、計算上受診率が下がっている状況。他のがん検診に関しては横ばいとなっている。
- ・ 脳血管疾患、虚血性心疾患では、男性は減少、女性がわずかに増加している。
- ・ 特定健診の受診率と特定保健指導の実施率については、R2年6月時点では受診率は32%、保健指導実施率は30.8%。(確定値は10月以降に出る予定)
- ・ 40歳から69歳の肥満者については、男女とも増加しており、市の大きな課題と考えている。

- ・他の項目は横ばいとなっている。

【意見】

- ・日向市民の生活状況や食事の傾向が分かると動きやすい
- ・コロナ禍の状況では、待つのではなく自分たちから情報発信する必要がある
(例：健康に特化したアプリの配信など)

【総括】 九州保健福祉大学 佐藤教授

- ・日向市の問題点は特定健診受診率、肥満、運動習慣と挙げたとき、何をしなければいけないのかを考えると1番は肥満対策であり、そこにターゲットを絞って推進していくのもよいのではないか。肥満対策に取り組むことで、健診受診率等の他の項目も改善できるのではないかと、考える。それぞれの団体の取り組みを組み合わせることで運動促進や食事改善のイベントを実施することが必要である。

4. 閉会